

第61号

高田短期大学通信

2026(令和8)年7月3日／発行 高田短期大学／編集 図書委員会



目次

巻頭インタビュー	P2-P3
子ども学科、育児文化研究センター、委託訓練生インタビュー	P4-P5
オフィスワークコース	P6-P7
介護福祉コース、介護福祉研究センター、外国人留学生支援室	P8-P9
キャリア支援センター、学生相談室・保健室・カウンセリング室	P10
学生自治会、部活動、図書館公開講座	P11

卒業式・入学式、新入生研修、仏教行事、仏教教育研究センター	P12
ボランティア活動支援室、学生広報スタッフ、研究余滴	P13
着任のみなさん、同窓会	P14
人生余滴、人事、公告	P15
就職状況一覧	P16

河杉さん(キャリア育成学科 オフィスワークコース2年)

筒井さん(子ども学科2年)

阪さん(キャリア育成学科 介護福祉コース2年)

海野さん(子ども学科2年)

徳井さん(キャリア育成学科 介護福祉コース2年)

加田さん(子ども学科2年)

学長 今日、学生自治会の皆さんにお集まりいただきました。高校時代のこと、高田短期大学を選んだ理由、短大に入学しての印象、そして将来の夢や目標などについて、皆さんの率直な思いを聞かせてください。



高校で楽しかったことは？

河杉 デザインを学べる高校で、自分が好きなデザインをずっとできる環境だったので、すごく楽しかったです。

阪 高校の家庭部で裁縫に取り組み、作品が完成したときの達成感が印象に残っています。また、部員と支え合う大切さを学びました。

徳井 文化祭で、クラスのみんなで協力して出し物をつくったことがとても楽しかったです。

筒井 私の高校は90分授業制だったので、放課後の長い時間をすごく有効に使えました。また、野球部のマネージャーとして遠征や甲子園も経験し、とても充実した楽しい高校生活でした。

海野 学校のスポーツ大会のバレーボールにクラスで出場したとき、私は中学でのバレーボールの経験を生かして参加しました。放課後にみんなでバレーボールの練習をする中で友達の輪が広がり、友達も増えてとても楽しかったです。

加田 高3の文化祭のとき、クラスで劇に取り組み、『やるなら一番を目指そう』と、先生も交えてみんなで協力しました。放課後も集まったりする中で交流が深まり、クラス全体の雰囲気良くなったことがとてもうれしく、心に残っています。

学長 本学では仏教精神を建学の精神としています。聖徳太子の「和をもって貴しとなす」という言葉にもあるように、お互いを尊重し、話しあって協力しあう「和」の心を大切にしています。皆さんのお話を聞いていると、高校時代からすでに、友だちや先生方との関わりの中で、この「和」の心を自然に大切にしてくられたことが伝わってきます。これからも本学で、「和」から生まれる楽しさ、そして楽しさの中で深まる「和」の心を大切に育みながら、それ

ぞれの夢や目標に向かって歩いていってください。

夢は？ 高短に入ったのは？

筒井 三重では保育士イコール高田という印象しかなかったなので受験しました。講義や実習で、保育に役立つ力を身につけたいと考えています。

海野 名古屋や四日市のオープンキャンパスにも行きましたし、高短には、1年生の頃から4回ぐらい来ました。高短はその都度やるのが違い、それが楽しくて他とはちょっと違うなと思いました。特に自然保育が楽しそうだなと思い選びました。また家からの距離が近いのも決め手となりました。

加田 保育士をめざしていますが、一番不安だったのがピアノでした。あちらこちらの大学を見学しましたが、高田は個別に使えるピアノの台数が多くて、「練習しない！」というときにも使いやすそうだと感じ、それが魅力的でした。また、オープンキャンパスで先輩たちが講堂で劇やダンスを披露してくれたことがあり、その様子がすごく楽しそうで印象に残りました。さらに、先生と学生の関係も、近すぎず遠すぎず、でもちゃんと支えてもらえるような、ちょうどいい距離感があると感じて、「ここなら安心できそう」と思い、高田を選びました。

河杉 将来役に立つと思うので、資格をたくさん取りたいです。これまでに、簿記、秘書検定、ワープロ、表作成などの資格を取ってきました。今後、パソコンスキルを証明するMOS(マイクロソフト オフィス スペシャリスト)検定にもチャレンジしたいです。それに加えて、就職支援が手厚いって聞いたので、それらの二つで入学しました。就職支援に関しては今とても助かってます。

阪 オープンキャンパスに行ったときに、学生と先生がとても仲良そうに話してるのを見て、いい距離感だなと思ったのと、また、パンフレットとか学生から話を聞いたときに、留学生と日本の学生もなんかすごい仲良くてっていう話を聞いて、いいなって思ったのと、あと社会福祉主事任用資格と言うのが、高短ではとれるので、いいなって思いました。私は、人の話を聞くのが好きなので、これを生かして、相手の気持ちを理解し、相手が安心できる、思いやりのある介護福祉士を目指したいです。

徳井 私三重県で介護福祉士が取れる短大が高田



しかないってということと、奨学金が5年働いたら返さなくていいというのが高短にあったので選びました。

オープンキャンパス、役に立ってる？

海野 子ども学科では、基本的な保育内容だけでなく、竹を切るとか、小松菜植えて持って帰るとか色んな体験ができてめっちゃ楽しかったです。それに、教えてくれた学生たちがキラキラして見えて。年齢的にはそんなに変わらないんですけど、やっぱなんかちょっと大人に見えて。「すごい！大学生って感じていいな・・・」とあこがれました。

阪 私は住んでるところが遠かったから、1回しか行けなかったのですが、ベッドとか使った介助や、足のフットケアとか体験できたから、「すごいや」って思い、「実際に自分がやる側になりたいな」って思いました。

河杉 私は、オープンキャンパスに3,4回行ったんですけど、パソコンやビジネスマナー、グループワークを体験できて、オフィスコースで学ぶことの具体的な想像がついたのが、良かったですね。

学長 皆さんが進路を選ぶうえで、オープンキャンパスが役立ったようで嬉しいです。子ども学科や介護福祉コースでは、あこがれや学ぶ楽しさを感じ、オフィスワークコースでは、入学後にどんなことを学ぶかがよく分かった、という印象だったのですね。



自治会に入ったのは？

海野 大学入ったら、結構周りが「やってみようよ」みたいな感じで、企画を考えるのが楽しそうだなと思いました。だから挑戦してみようと思うようになりました。

阪 1年生の高短祭のときにサポートメンバーをやって、自治会の動きを近くで見て「私たちもこんなふうにやってみたい」と思って、入ってみました。

筒井 昨年の高短祭で、2年生が頑張ってるのを見て・・・という感じです。

学長 自治会主催の高短祭、今年も皆さんの力で大いに盛り上がりそうですね。

海野 乞うご期待。学生自治会メンバーの人数が多いので、結構できることも多いかなと思っています。

要望とか悩みとかは？

学生さん達 座学の授業や教室でのグループワーク

など、専門的な勉強が多いです。大変だなと思ったりすることもあるけど、「2年間、頑張るしかないか」とか、友達と一緒に受けてるから「自分も頑張ろう」って思えたりする。入る前はパンフレットで見た川遊びや自然活動に魅力を感じていたんで、これから自然活動や野外活動ももっと経験したいです。スクールバスは、終点が大学か津駅なので、降りのタイミングを気にしなくていいので少し寝たりして体力を温存できる。それに無料なのありがたいです。

学長 2年間で多くのことを学ぶので、大変に感じることもあるでしょうね。ただ、皆さんはそれぞれしっかり目標を持って頑張っていて、とても頼もしく感じます。また、川遊びの写真は、以前のゼミで自然保育をされている園にお邪魔したときのものですね。それぞれのゼミでは、焼きイモづくりや流しそうめんなど、さまざまな体験活動を行っているので、皆さんも「やってみたい」と思うことを積極的に提案して、先生方と一緒にいろいろな活動に取り組んでみてください。

筒井 保育士を目指して入学したけれど、実習で実際の現場を経験する中で、「自分に向いているのかな」「本当になれるのかな」と不安になることがあります。周りにも同じように悩む友人が多く、になりたい気持ちはあるのに、現実が見えてきたことで怖さを感じることもあります。

学長 たしかに、仕事の大変さや現実的な部分が見えてくると「自分にできるかな」「大丈夫かな」って不安になりますよね。でも、それは保育士に限らず、どの仕事を目指すとしても同じように起こりうることだと思います。だから、そういうときは「どうして自分はこの仕事を目指したのか」という原点に立ち戻って考えてみるのが大切だと思います。そのうえで、「やっぱりやりたい」と思えるなら進めばいいし、迷いがあるなら、改めて自分の進路を考え直してみるのもいいと思います。また、一人で抱え込まず、同じように悩んでいる友達と話したり、先生に相談したりするのも大事だと思います。悩んだり、相談したりする時間も、大切にしてほしいです。

筒井 すごい、悟りに導かれた・・・みたいなの。(笑) すごい今いい気持ち。めっちゃ、心動かされました。

学長 相談したいことがあったらいつでも学長室に来てください。

筒井 毎日通いそうです。(笑)

学長 今日、皆さんの話を聞いて、楽しく協力し合う姿勢、夢に向かって努力する意気込み、悩みながらも仲間と支え合って前に進もうとする姿、そして自治会活動に取り組む意欲を感じることができました。また、皆さんの発言の随所に、本学が大切にしている「和」の精神が息づいていることも嬉しかったです。これからも、仲間や先生方とのつながりを大切にしながら、充実した学生生活を送ってってください。

全員 ありがとうございます。

(聞き手 大野 照文)

子ども学科



心が動く体験が学びを深くする!

子ども学科では、学内での専門的な学びと保育現場での多様な体験を通して、学生の一人ひとりの「学びたい」という気持ちを大切に育んでいます。子どもたちとの出会いや感動、発見は、保育の楽しさや奥深さを実感する大切な学びへとつながります。実習のみならず、ボランティアや学内にあるおやこひろばでのあそび場づくりなど、心が動く体験を数多く取り入れることで、学生の知的好奇心や主体性を引き出し、自分らしい保育者像を描けるような工夫をしています。仲間とともに支え合いながら成長し、子どもたちの未来を支える保育者として大きく羽ばたける力を育んでいきたいと思ひます。

(子ども学科長 長倉 里加)

「つくる」をテーマに -亀澤ゼミナールの取り組み-

当ゼミでは、「つくる」をテーマに活動に取り組んでいます。活動内容は全員で協議し、それぞれの関心を大切にしながら計画を立てました。造形の授業では体験できなかった素材や、挑戦してみたかったことを中心に、前期はレジンで作るボンボンドロップシール、アイロンプリント、流しそめんなどに取り組む予定です。活動計画を立てるなかで学生の関心や選んだテーマを見てみると、流行や時代の空気を敏感に感じ取る新鮮な感性を感じます。ゼミがスタートして約1か月、学生の取り組み姿勢も様々です。友人同士で話しあいながらすすめていく学生がいる一方、一人で黙々と掘り下げながら製作に取り組む学生もあり、それぞれ異なっています。必ずしも図工・美術が得意だった学生ばかりではないものの、「つくる」ことに関心を持ち、それぞれの仕方で探求しています。教員自身も初めて触れる素材があり、手探りでの取り組みですが、とくに指導しなくても試行錯誤を重ねながら、自ら製作に取り組む学生の姿が印象的です。ゼミ活動での学びを通して、将来、自分の保育や人生に活かせるような、小さな種をたくさん見つけてほしいと考えています。



(子ども学科 亀澤 朋恵)

保育体験 -保育を見る・知る-

1年次夏季休業中に、保育の1日の流れ、子どもや保育者の姿を見る・知ることを目的とした保育体験を令和7年度生からスタートしました。取組みの理由は、従来の入学生よりも保育の場や子どもとのかかわりの経験が少ないことから実習経験にプラスできる機会を創出したい、ということからです。保育体験には、本学の連携協定市(津市・鈴鹿市・松阪市・亀山市)の公立園と私立認可園(三重県私立幼稚園・認定こども園協会・三重県私立保育連盟に所属する園)にご協力いただきました。

学生の自主参加とし、希望する園があれば複数園参加できることとしました。最初の実習(1年次11月)前に現場を知りたい、園の保育内容に興味・関心がある、就職先候補にしたい等、参加の理由はそれぞれに持ちながら、約60名の学生(複数園参加の延べ人数は約90名)が体験を行いました。体験後のアンケートからは、「改めて、保育の難しさや大変さを感じたが、それ以上にやりがいのある仕事だと思い、保育士になりたいという気持ちが強くなり、よい経験ができた。複数の園に行くことにより、それぞれの園の良さが分かりよかった。」「異年齢保育の内容を知ることができた。子どもの背景を考え接することの大切さや、環境構成の重要性を学ぶことができた。」「嬉しいことに子どもたちに好かれて色んな子からこっち来て!と言われたが、同時には行ってあげられないため、そのような時の対処も難しかった。」など、実際の体験からしか得られない気づきや学びが多く挙げられました。

(子ども学科 福西 朋子)

Check!

新たな資格に挑戦!!

本学では今年度より**おもちゃインストラクター資格の取得が可能**となりました。子どもの発達段階に応じたおもちゃの選び方や遊びの工夫など基本的スキルを、講義と実践を通して体系的に学べます。また保育者としての遊びのレパートリーが広がり、実習にも役立ちます。本学の学生はもちろん、地域の方にも受講していただけるため、世代を超えた交流の機会にもなります。保育や子育て支援の現場で即戦力として活かせる資格です。開催日は11月1日(日)です。詳しくは本学ホームページをご覧ください。



🎒 育児文化研究センター

育児文化研究センター昨年度の活動と今後

育児文化研究センターは、20年以上地域子育て支援事業として様々な活動に取り組んできました。

昨年度は「おやこひろばたかたん」や「ファミリーデー」として親子や家族でのあそび場を開催し、多くの地域のご家族に遊びに来ていただきました。また、センター主催事業として音楽のアトリエMUSICANOによる「音楽で楽しむはじめての音楽会」を行い、親子でバイオリンやピアノなどの本格的な生演奏に触れ、とても贅沢な時間を過ごしていただくことができました。さらに、津市の委託事業として父と子で一緒に木工体験ができる「父と子のふれあいイベント」を行い、非常に好評でした。他にも、様々な事業に取り組む中で、地域社会との連携や貢献という役割を果た



してきました。

今年度からは育児文化研究センターが取り組んできた「子ども」「子育て」に関する主な事業を、子ども学科が担っていくこととなりました。

中でも、「おやこひろばたかたん」や「ファミリーデー」には今まで以上に学生が運営に携わり、学生の学びの場としていきたいと思っています。

他の地域連携に関する事業については、子ども学科だけではなく大学が一丸となって進めていくために、「地域連携支援スタッフ」を配置しました。「高田短期大学と一緒にこんなことはできないだろうか」とか「学生と一緒にこういう活動をしてみたい」などの本学への要望をお待ちしています。今後も、高田短期大学は今まで以上に地域との連携や貢献を大切に歩んでいきたいと考えています。

(子ども学科 青木 信子)



委託訓練生の学生さんにインタビュー



子ども学科2年生
 栗原 優輝 さん
 大谷 愛乃 さん
 益倉 恵音 さん
 田端 希帆 さん
 (左から)

本学では委託訓練生として社会人経験のある学生さんも学んでいます。社会人経験を経てどのような学び直しをされているのでしょうか。4人の学生さんにお話をうかがいました。

●学び直しの良いところはどんなところですか？

私は元々勉強が得意だったわけではなく、10代のころは面倒くさいといったマイナスなイメージを持っていました。しかし、一度社会人を経験してから学び直しをすることで、自ら学ぶとする前向きな姿勢で、楽しく充実した日々を過ごしています。(大谷さん)

●実習をやってみた感想について教えてください

保育職の資格を取得後の進路について、漠然としたイメージでしか考えられませんでした。幼稚園(教育実習)と保育園(保育実習)の2度の実習を経験して、保育の仕事に関するイメージ

を明確に持つことが出来ました。まだ、施設実習(2年次6月)には行ったことがなく、それを受けてから決めようと思っていますが、保育園で働きたいと思うようになりました。(栗原さん)

●好きな授業は何ですか？

私の好きな教科は、「子どもと人間関係」です。この教科では、子どもに関わる様々な事例をグループで検討します。話し合いを通して他の人の考え方や関わり方を知ることが出来、新たな視点に出会えます。そうした経験から、自分の考え方や振る舞い方の幅が広がるところに魅力を感じています。(田端さん)

●高田短大での生活について

久しぶりの学校生活で不安もありましたが、訓練生のメンバーと話す時は、いつも楽しく元気をもらっています。実習中に辛かったり、不安になった時も訓練生のメンバーと支え合いながら頑張っています。現役生とも仲良くなれることができ、勉強は大変ですが、沢山の人の支えてもらいながら、日々頑張ることができています。(益倉さん)

※委託訓練とは、一定の条件を満たす方が三重県の指定する機関で勉強し国家資格を取得し正社員での就職を目指す制度です。

卒業生からのメッセージ

- ①勤務先・進学先 ②就職して嬉しかったこと、辛かったこと
 ③将来の夢 ④高田短大とは ⑤先輩へのメッセージ

保育者になってみて

子ども学科 令和7年度卒 上村 華凜

①玉城町立有田保育所 ②子ども達に名前を覚えてもらえ、呼んでくれた瞬間がとても嬉しかったです。初めは名前を間違えたり、すぐに出てこなかったりしていましたが、徐々に覚えていき呼んでくれた子どもの人数が増えたときにとても嬉しく感じました。③子どもの気持ちを尊重した保育者になりたいです。大人の価値観で決めつけるのではなく、子どもの話をしっかりと聞いて考えていきたいです。子どもと一緒に楽しい毎日を送っていききたいです。④保育者になりたいという共通の気持ちを持った友達に出会える場所だと思います。実習で嬉しかったことや辛かったことを共有し、気持ちを分け合うことができ、友達の意見を聞くことで自分自身が成長できる場でもあると思います。⑤社会人として働くと、友達と休みの日を合わせたりすることが難しくなり遊ぶことができなくなってきました。学生の間にたくさん遊び、楽しい学生生活を送ってください！



在学生の声

短大での生活

子ども学科2年 近藤 可菜

高田短期大学に入学してから、早くも1年が経ちました。授業や実習、学校行事などを通して多くの経験をしましたが、特に印象に残っているのは実習です。実習へ行く前は、子ども達とうまく関わられるか、園の雰囲気になじめないかなど、不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、実際に実習を行う中で、先生方の保育の工夫や子ども達一人ひとりとの関わり方を学ぶことができました。また、子ども達と一緒に活動を楽しむ中で、小さな成長や変化に気づくことができ、保育のやりがいや楽しさを感じました。そこで日頃の授業や実習は、保育者になるために欠かせない大切な学びの時間だと感じています。短大で学んだことを活かし、現場でも笑顔を大切に、行動できる保育者になれるよう頑張りたいです。



キャリア育成学科 オフィスワークコース



伊東ゼミ・夏季合宿

昨年9月、伊東ゼミ1年生が1泊2日の夏季合宿を実施しました。観光経営学のゼミ学生として卒業研究の遂行に活かせる視座を得ることが目的で、大阪・関西万博や大阪市内の観光資源を視察しました。

視察を通じて、ゼミ学生は次の2点を学んだと捉えています。第1点は、日常生活圏と非日常生活圏のギャップです。特に、大阪・関西万博のパビリオンは、各国の異なる歴史や文化から形成された価値観を肌で感じられる貴重な場となりました。

第2点は、情報の信憑性です。様々な思惑で開幕前からネガティブキャンペーンが繰り返られていたものの、9月8日の視察当日は入場ゲートから大混雑が続き、メディアを通じて得た断片的な情報が実態と大きく乖離していることに気付く機会となりました。

これらの学びを基に、各ゼミ学生が自身で訪れたパビリオンの国を研究対象として、観光政策に関する卒業研究レ



オフィスワークコース 就職活動の取り組み



●キャリアガイダンスⅡ (グループディスカッション講座・メイクアップ講座)

2月12日(木)、キャリア支援を目的とした科目「キャリアガイダンスⅡ」において、グループディスカッション講座とメイクアップ講座を実施しました。いずれの講座でも、学生は外部講師による説明を受け、実践を交えながら就職活動に向けた準備について学びました。

前半のグループディスカッション講座では、与えられたテーマに基づいて意見交換を行いました。学生たちは、メンバーの発言に耳を傾けながら、自分の考えを伝える姿を見せていました。

後半のメイクアップ講座では、化粧品メーカーの講師から、就職活動にふさわしいメイクアップの基本についてご指導いただきました。参加した学生は、実際にメイクを試しながら、身だしなみや第一印象を整えるポイントを学びました。

新年度を迎え、内定を得ている学生も増えてきました。今後も、地域の外部講師の方々にもご協力いただきながら、早期化する就職活動に対応した授業を展開していきます。

(オフィスワークコース 伊東 秀幸)

ポートを執筆しています。

(オフィスワークコース 伊東 秀幸)

オフィスワークコースセミナー連続講座 今さら聞けないパソコン基礎講座(川喜田ゼミ)

川喜田ゼミでは、キャリア育成学科オフィスワークコースセミナーとして「連続講座 今さら聞けないパソコン基礎講座」を実施しました。おかげさまで、今年4年目を迎えました。第1回は2年生がExcel基礎を、第2回は1年生がExcelグラフ作成を担当し、地域の方々にパソコン活用の楽しさを体験していただきました。

参加者の約半数がリピーターの方々に、「ぜひ続けてほしい」「今すぐ来年度の申し込みをしたい」という温かいお言葉をいただきました。第2回では学生が一部の内容で講師役を務めるなど、学生のスキルアップを実感できる場面も見られました。毎回足をお運びくださる方々がいらっしゃることは、学生たちの大きな自信となり、サポート力の向上につながっています。

令和8年度はMS-Officeを活用した動画づくりや絵手紙作成にも挑戦します。パソコンを通じて地域と学生が互いに学び合い、ともに成長できる場としてこれからも発展させてまいります。

(オフィスワークコース 川喜田 多佳子)



前半のグループディスカッション講座の様子



後半のメイクアップ講座の様子



オフィスワークコースの地域貢献活動

オフィスワークコースでは、ゼミナールや学外授業で地域活性化に取り組んでいます。昨年度実施した取り組みを紹介します。

「一身田七夕まつり」(川喜田ゼミ)

令和7年7月5日、地元・一身田寺内町で開催された「一身田七夕まつり」に、川喜田ゼミ2年生が参加しました。一身田青年団の皆さんとともに企画段階から携わり、当日は地元「臼井織布」さんの伊勢木綿着物をまとったゼミ生が、子どもたちに向けたゲームコーナーを笑顔で運営しました。今年で3年目を迎えるこの取り組みを通じ、短大での学びを地域の舞台で活かしながら、まちの賑わいづくりへの貢献を続けてまいります。



歴史ある門前町の魅力を絵地図に (江淵ゼミ)

大学近郊の商店街「一身田寺内町」。この地域の活性化に関する取り組みとして、昨年度は「絵地図」の制作を行いました。学生たちは実際にまちを歩き、映えスポットや食べ物など、地域の魅力を調査。制作の過程では、地域の商店街や百五総合研究所、津市役所の方々



に向けて発表を行い、地図に載せる内容や伝え方について助言をいただきました。こうして、学生ならではの発見を盛り込んだ地域の魅力を伝える絵地図となりました。

榊原地域の魅力探し (チームプロジェクト演習II)

令和7年7月28日(月)に、チームプロジェクト演習IIの報告会を津市榊原地域の事業所2か所で実施しました。本科目は、津市の地域資源が持つ魅力を若者目線でデザインし、オフィスワーカーとして求められる企画立案能力の確立を目指す科目です。令和7年度は、前年度から引き継いだ「地域に必要とされるゴルフ場の実現」をテーマとして掲げ、ロストボールを地域通貨として活用するプロジェクトの具体的な施策を検討してきました。学生の報告に対して事業所の皆様から、課題や今後の展開につながる有意義な指摘をいただきました。



(オフィスワークコース長 野呂 健一)

卒業生からのメッセージ

- ①勤務先・進学先 ②就職して嬉しかったこと、辛かったこと ③将来の夢 ④高田短大とは ⑤後輩へのメッセージ



人に恵まれた社会人生活

キャリア育成学科
オフィスワークコース 令和7年度卒 藪谷 宝寿

①松阪ケーブルテレビ・ステーション株式会社 ②嬉しかったことは職場の方々が優しく、相談しやすい環境であることが嬉しかったです。また、人に恵まれてると感じました。さらに、自分がイメージしていた仕事内容と実際の仕事内容の差が無いので、自分のしたかった仕事が行えているため、良いところに入社できたと思いました。③将来の夢は家庭を持つことで、その為に貯蓄苦手だけど、頑張ってます！④高田短大とは、新しい友人との出会いで今までとは違う楽しさがあって入学して良かったと思いました。また、授業では資格取得や実務的なことを突き詰めてできるので、自分にとっては合っていたなと思っています。⑤今いる友人とたくさん思い出を作って楽しみたい、就活では自己分析を特に取り組んでみたいと思います！

在学生の声

1年を振り返って

キャリア育成学科
オフィスワークコース2年 田中 杏奈



この一年は就職活動への準備と貴重な体験が詰まった、あっという間の一年でした。

特に心に残っているのは、ゼミの仲間と訪れた大阪万博です。普段の生活では触れる機会の少ない他国の魅力を直接肌で感じられたことは、私にとって大切な思い出になりました。

そんな心弾むひと時の一方で、将来に向けた自分磨きも本格化しました。マナー講習や面接対策など、年末に向けて実践的な準備を重ね、自らの将来を真剣に考える実りある日々を過ごしました。早い段階から動き出したことで自身の課題も明確になり、少しずつ自信を持てるようになったと感じています。

「広い視野」と「学ぶ姿勢」を大切に、2年生では社会人として即戦力になれるよう専門知識の習得に励みたいと思います。

キャリア育成学科 介護福祉コース



介護の多様な魅力と実践を発信

介護福祉コースでは専門知識や技術の修得にとどまらず、学生が体験を通して主体的に学べる多様な魅力ある活動を展開しています。

学生の声を地域へ発信し、魅力を共有

昨年度は、FM三重ラジオ放送の番組に在学学生、卒業生（留学生）、教員が出演し、高田短期大学で学べる介護の魅力を広く発信することができました。その中で、本学を選んだきっかけや介護の仕事のやりがいなどを語りました。



学術的な体験から介護福祉を見つめる

「介護福祉士会第32回全国大会・第23回日本介護学会 in みえ」の基調講演に参加しました。介護福祉の現場や研究の最前線に触れる機会を持つことで、キャンパスで学んでいる内容がさらに深まる可能性を感じることができました。



新たな介護福祉の魅力を探る

三重県介護福祉士養成施設協議会主催のFM三重のラジオ放送に学生に参加してもらいました。美容職のキャリアがある学生で、介護×美容についても触れ、これま



で培ってきた経験を活かすこともできる介護福祉の仕事の魅力をアピールすることができました。

ゼミでの心が通い合う交流

国家試験合格に向けて、新しい取り組みをスタートしました。2年間の学習の成果である国家試験が合格できるように、模擬問題に取り組む機会などを増やし、これまでの学びの定着を図ってきました。また、伊勢志摩の「いばら饅頭」づくりや東北地方の「芋煮」づくりなど各地の郷土料理作りを通じて心温まる交流を深めることができました。



介護福祉コースの目指す人材育成

昨年度の取り組みを通して、学生自身が「なぜ介護福祉を学ぶのか」を見つめ直す言語化のプロセスであり、地域社会とのつながりを実感できる機会だったと思います。介護福祉士の全国大会や日本介護学会への参加、ゼミでの交流は、専門職としての視野を広げ、「人が人を支えること」の意味を再考する、実践的な学びだと思っています。

介護福祉コースの目的は、単に生活支援技術を提供する人材ではなく、多様な背景を持つ人々の「その人らしい生活」を総合的に支えるプロフェッショナルを育成することにあります。これまでのキャリアや世代や国籍を超えた経験が、介護福祉現場に新しい風を吹き込むと確信しています。

これから、介護福祉士を目指そうと考えている皆さん。介護はこれまでの経験や優しさがすべて活かせるクリエイティブな仕事です。ぜひ、高田短期大学と一緒に新しい介護福祉の形を見つけましょう。

（介護福祉コース長 小倉 和也）

➊ 介護福祉研究センター

●地域と現場をつなぐ介護福祉研究センター

介護福祉研究センターでは、介護福祉の魅力の探究のため実践的な活動を行っています。昨年度の主な取り組みをご紹介します。

一つ目は施設への訪問実践です。フットケアが専門の東海林先生とゼミ生が「報徳園」を訪問し、利用者様に直接フットケアを行いました。

二つ目は、「介護研究初級セミナー」の開催です。「介護研究って何だろう？」という初歩の視点から、介護の質の向上を目指すための研究について学び合う場を作りました。

三つ目は、地域に向けた「介護福祉セミナー」です。認知症の基礎知識を学ぶとともに、「愛風さんの音楽DEリフレッシュ」と題して、心温まる懐かしい音楽を聴き

ながら交流を深めることができました。

この記事を読んでくださっている皆様、当センターの学びは、地域と密接につながる内容に溢れています。多くの人との出会いを大切にしながら、生きた介護福祉を本学介護福祉研究センターで学び合いましょう。



(介護福祉研究センター長 小倉 和也)

🌐 外国人留学生支援室

●外国人留学生支援室について

本学の留学生支援室では、多様な背景を持つ学生が安心して学業に励めるよう、多角的なサポート体制を整えています。

専門科目の理解を深めるための日本語学習支援を軸に、個別指導や学習相談を随時実施し、確かな専門性の修得を支えます。また、現場での実習や地域の文化交流行事への参加等を通じ、生きた日本語と日本文化を肌で感じる機会をサポートしています。

私たちは、異文化への理解と共感に基づいた「共生の学び」を大切にしています。卒業後の進路を見据え、就職活動支援も含めた一貫したフォローアップを行い、一人ひとりが日本で、あるいは母国で自分らしく輝ける未来

を全力でバックアップしてまいります。

(外国人留学生支援室長 北川 裕之)



日本語補習講座で楽しく学びながら、日本語力の向上を目指す学生

卒業生からのメッセージ

- ①勤務先・進学先 ②就職して嬉しかったこと、辛かったこと ③将来の夢 ④高田短大とは ⑤後輩へのメッセージ

初めて働いてみて

キャリア育成学科 介護福祉コース 令和7年度卒 葛西 勇太

①ケアフル亀山 特別養護老人ホーム亀寿園 ②利用者様の笑顔や感謝の声をもらえた時です。声かけ一つで表情が変わることもあります。仕事では段取りを立てて進めなくてはいいませんが、それが難しいです。しかし先輩方は「何度でも質問をしてください」とおっしゃってくれます。③利用者様の笑顔を増やせる介護士になりたいです。そのためには利用者様一人一人の個性を知ることや、少しの変化に気づく必要があると考えます。④先生方が優しく、悩みも聞いていただけたと思います。そして専門教科を通じて学びが深まると思います。⑤私はしていませんが、長期でバイトやボランティア活動をすると、段取りを立てる力がついて良かったかもしれません。



在学生の声

将来につながる学び

キャリア育成学科
介護福祉コース2年 谷 涼菜

私は高田短期大学の介護福祉コースで学び、多くの経験をすることができました。授業では介護技術だけでなく、相手を思いやる気持ちの大切さも学びました。

特に印象に残っているのは介護実習です。最初は緊張して利用者の方とうまく話せませんでしたが、自分から積極的に声をかけることで少しずつ信頼関係を築くことができました。利用者の方から「ありがとう」と言ってくれた時は、とても嬉しく、介護にやりがいを感じました。

また、クラスメイトと協力して課題や実技練習に取り組んだことも大変でしたが学びに繋がりました。大変なこともありましたが、友人や先生方に支えられながら成長していくことができました。



キャリア支援センター



キャリア支援センターとは？

キャリア支援センターは、平日8時30分から17時まで開室しています。進路相談や面接対策、ピアノや読み聞かせといった実技対策などのサポートを行っています。企業や園、施設の求人情報に加え、先輩方の受験報告など、就職、進学に役立つ独自情報も提供することができます。教養試験対策本など、資料の貸出も行っていますので、いつでも気軽に立ち寄ってください。進路相談や試験対策の個別対応は30分単位の予約制で行っています。キャリア支援センターの受付簿で予約してください。電話(059-253-7000)またはメール(shinro@takada-jc.ac.jp)での連絡も受け付けます。また、センター内の先輩方の受験報告は、高短の歴史と伝統があってこそその独自の貴重な財産です。資料の閲覧は予約なしでいつでもOKです。

キャリアサポーター紹介！

公立保育園・幼稚園で長年勤務し、園長経験もあるサポーター、県内企業で長年勤務するなど、経験豊富なサポーター(うち、一人はキャリアコンサルタントの国家資格を所持)をはじめとする7人で学生全員に寄り添い、伴走することを心がけ、就職活動のサポートを行っています。保育者を目指す方、介護職、一般企業の総合職、一般職を目指す方などすべての学生の皆さんを精一杯支えていきたいと思います。昨年度は、多くの学生が公務員試験にチャレンジし、一定の成果を残してくれました(公立園保育職のべ41名合格、一般事務・警察のべ5名合格)。今年度も一人ひとりの学生の皆さんに対し丁寧に支援していきます。よろしくお願いします。



(キャリア支援センター長 久野 嘉也)

学生相談室 保健室 カウンセリング室



学生相談室より

学生相談室は2名のスタッフが常駐しており、みなさんが充実した大学生活を過ごせるようにサポートしています。相談に来られた方のお話を丁寧に聴き、これからどうすればよいか一緒に考えます。

相談内容は、友達や先生、家族といった対人関係に関することから、学習・実習や進路に関することまで、様々です。「自分」についてより深く理解するためのアンケートや検査も可能です。また、ストレスや緊張を和らげたり、自分のことをうまく相手に伝える練習をしたりするグループワークも行っています。必要に応じて学内外の相談機関等を紹介することもできます。些細なことでも大丈夫です。「こんなことで相談してもいいのかな」と心配せず、ご相談ください。



TEL:
059-253-7014 (直通)



E-mail:
gakuseisoudan
@takada-jc.ac.jp

(学生相談室 野崎 千恵)

保健室紹介

保健室では、皆さんが心身ともに健康で充実した学生生活を送れるようにお手伝いをしています。

学校でケガをしたり体調が悪くなったときには、応急手当を受けたり休養することができます。

健康診断の結果にもとづく保健指導や日々の健康相談を通して、より健康な学生生活を送るためにはどうすればよいかを皆さんと一緒に考えていきます。体調面で心配なことがあれば保健室に相談してください。

(保健室 富永 礼子)

カウンセリング室より

カウンセリング室は、皆さんが日常生活で直面する悩みについて、カウンセラーと話しながら解決や改善にむけて一緒に考えていく所です。

友人や家族との関係がうまくいかない、過去の嫌なことを思い出してしまう、あるいは「なんだか気力が出ない」と感じることは誰にでもあることです。「そこから抜け出したい」と思うのも、自然な気持ちです。

つらい時、人は誰かに話すことで、ほんの少し心が楽になることがあります。話していくうちに、考えがまとまってきたり思わぬ気づきに出会うものです。

カウンセラーには守秘義務があり、お話しされた内容が外に漏れることはありません。また、皆さんが希望される場合には、適切な窓口へつなぐお手伝いいたします。

うまく話せなくても大丈夫です。自分を大事にするためにカウンセリング室をどうぞ気軽にご活用ください。

(カウンセリング室 瀬島 美保子)

学生自治会の紹介

令和8年度の学生自治会執行部は子ども学科9名、キャリア育成学科オフィスワークコース3名、キャリア育成学科介護福祉コース2名というメンバー構成です。

今年度は4月に新入生研修、5月にTJC祭、10月に高短祭、3月に謝恩会を開催する予定です。また、抽選会等のイベントを随時企画しています。高短生の皆さん、一緒にたくさん楽しみましょう。
(学生課)



令和7年度 謝恩会の様子



令和7年度 高短祭の様子

部活動の紹介

地域とつながる居場所づくり

2025年4月、子ども学科の学生が中心となり、高田短期大学こどもの居場所づくりプロジェクトを立ち上げました。子ども食堂や居場所づくり、体験活動の提供等をおこなっています。夏休みには、王将フードサービスから提供いただいたお弁当の配布と体験活動を準備し、5日間で200名を超える親子に参加していただきました。学生にとっては、実習以外で子どもや保護者とかわることができる機会であり、自分たちで企画等を考えて進める機会にもなっています。子ども食堂で使う野菜は国児学園や三重大学教育学部附属特別支援学校で子どもたちが育てた野菜を使わせていただいたり、地域の企業等とのつながりも少しずつ増えていたり、居場所づくりをとおして地域とのつながりも広がっています。子どもや子育て中の家族の居場所としてだけでなく、学生や地域の方々にとっても“つながる”居場所となるよう、今後も活動



していきたく考えています。

(たかたんこどもの居場所づくりpj顧問 中嶋 麻衣)

茶道はおもてなしの文化

健康効果やSNSに映える美しい緑色が注目され、抹茶が世界でブームになっています。抹茶をたて客人にふるまう茶道にも日本の伝統的おもてなし文化として注目が集まっています。

茶道部では月2回ほど専門の先生方にお越しいただき、作法を学んでいます。部員はお互いにもてなし、もてなされ、美味しい和菓子とお抹茶を味わいながら楽しく過ごしています。茶道部での経験は、子ども向けの文化体験の実施、多世代・多文化の交流、さらには接客スキルの向上などさまざまなことに役立つでしょう。

高短祭では毎年お呈茶があります。ぜひとも多くの人に体験していただきたいと思っています。



(茶道部顧問 伊藤 拓也)

図書館の紹介

図書館主催の公開講座を実施しました

2025年度も、高田短期大学付属図書館公開講座「図書館司書と楽しむ文学とおしゃべりの講座」(全2回)を開催しました。今年度は2回通しではなく講座別にお申込みいただきました。

11月実施【講座1】「源氏物語 宇治十帖を味わう —主人公は結局誰!?—」では、すれ違いの結末を通して、作者がこの作品で本当に描きたかったテーマは何だったのか、この部分だけ作者が異なる可能性も踏まえながら、考察しました。

2月実施【講座2】「映画監督 ビクトル・エリセー 10年に一度のめぐり逢い」では、まず部分的にはありますが映像とともに解説をお聞きいただき、その後作品の魅力とテーマに迫りました。



講座の最後あるいは終了後には、皆様から感想やご意見をいただきました。

本講座は2026年度も引き続き開催することになりました。学生の皆さんの受講も歓迎いたします。

(高田短期大学付属図書館 司書 瀬古 幸弘)

卒業式・入学式について



令和7年度卒業証書・学位記授与式が、3月19日(木)に挙行されました。子ども学科・キャリア育成学科あわせて240名の卒業生が、慣れ親しんだ学舎をあとにしました。

また令和8年度入学式が、4月2日(木)に挙行されました。式典は仏式にて挙行され、在学生代表による献灯・献華・献香・華籠献華に続き、新入生代表による焼香・三帰依・誓詞の読み上げを行いました。子ども学科・キャリア育成学科あわせて211名が入学し、この日より新たな学生生活のスタートを切りました。(総務課)

新入生研修



令和8年度の新入生研修が4月16日(木)に日硝ハイウェアリーナで実施されました。午前は学生自治会企画のレクリエーション、午後は各学科ごとに研修を行いました。子ども学科では、表

現力豊かな劇を発表し、キャリア育成学科では、チームビルディングを通して仲間と協力する大切さを学びました。



本山参詣と年四回の仏教行事について

本学では、入学式後、新入生は高田派本山専修寺へ移動して、本山参詣が行われます。本学では仏教行事を通して建学の精神を身につけますが、本山参詣はその精神発祥の地を訪ねるものです。

今年も、新入生は親鸞聖人座像が安置された御影堂に入り、清水谷正尊学長から、本山の歴史、御影堂と如来堂(阿弥陀如来立像が安置されたお堂)の説明を聞きました。二つの大きな御堂の建立と維持は、阿弥陀如来のお心と親鸞聖人のお心を護り伝えようとされた先人の多大なご苦労の歴史



の象徴であり、新入生もその御堂に座して手を合わせ、今後の仏教行事で唱和する読経や仏教讃歌の練習もして、建学の精神を身につけるスタートとなりました。

本学の建学の精神は、「仏教精神に基づく人間教育」ですが、このテーマは全国の仏教系大学でも同じです。そして、どの仏教系大学も「仏教行事」を重んじています。それは「建学の精神」に触れる貴重な機会になるからです。



仏教行事では、「聖歌隊」の仏教讃歌が会場内に響く中、代表学生による華籠献華・献灯・献華・献香によって華やかでかつ厳粛な空間に身が包まれますし、今年五月の「宗祖降誕会」

では、梅林久高先生(高田学苑・学苑長)から「親鸞聖人の降誕会に遇えて」と題したお話を聞くことができました。このように、建学の精神が自然と身に染みこむ空間と時間、それが仏教行事であります。(仏教行事委員長 松山 智道)



仏教教育研究センター

仏教教育研究センターは、学内にある他のセンターと同様に「地域連携施設」であります。

その主な活動内容は、本学の建学の精神である仏教の学びが、学内だけに留まらず、学外の地域の方々にも広がることを願って、様々な講座が開かれています。年齢は問いませんので、学生の皆さんも参加できます。高田派本山からの寄附による共催事業ですから、参加費は無料です。

昨年のセンター公開講座(年二回で各二時間、会場は高田会館)は、中川結幾氏(センター研究員、高田中・高等学校非常勤講師)による「『ともに生きる』とは一自死の活動から」と千草篤麿氏(特別養護老人ホーム報徳園園長、高田短期大学名誉教授)による「三重の仏教福祉の源流—明治・大正・昭和(終戦まで)—」でした。

他の講座では、本学を会場にセンター研究員が講師となって「仏教基礎講座」(五日間終日の集中講座)と「仏教専門講座」(二年間で月一回終日の講座)が開催され、多くの一般の方々を受講されています。

センター研究員は、毎月一回、研究会を開催して研鑽を積んでいます。研究会に参加される研究員のほとんどが外部研究員であり、交通費も自費で参加されています。

大学によっては一般向け公開講座が、諸事情により縮小削減傾向にあると聞きますと、当センターではより一層充実した地域貢献施設であらねばと思います。

「現代学生百人一首」(東洋大学主催)には、「定期券見せて改札通る時言葉にならぬ誇らしさ」(80歳・夜間中学校)、「大雨の道を急ぎ学校へぬれた教科書胸にだきしめ」(60歳・定時制高校)とありました。

仏教教育は生涯学習です。センターの講座に来られる方々、そして講座を担当される研究員の方々、みなさん熱心ですし、輝いておられます。(センター長 松山 智道)





ボランティア活動支援室

ボランティアで、誰かの力に。

誰かの笑顔を見て、胸がじんとした経験はありませんか。「役に立てた」という実感は、言葉では言い表せないほど温かいものです。ボランティアの醍醐味は、まさにそこにあると私は思っています。

地域のため、社会のため、そしてあなたの目の前にいる「その人」のために、時間と気持ちを差し出すこと。まずはそこに出発点があります。高齢者の方の話し相手になる、子どもや障害のある方に寄り添う、パソコンの操作をやさしく教える。特別なスキルよりも、「役に立ちたい」という純粋な気持ちが、人と人をつなぎます。そしてその瞬間、あなたを必要としている誰かの表情が変わる。その小さな変化に、思いやりの心は育まれ、関わるすべての人の心がじんわりと温かくなる。これは、飛び込んでみた人にしか味わえない、双方の幸

せです。

達成感や充実感、自己肯定感は、「誰かの役に立てた」という経験の後に、自然とついてくるもの。ボランティアは自分を磨く手段ではなく、誰かに寄り添う行為の中で、気づけば自分も変わっていた——そんな体験です。短大生である今だからこそ感じられる感受性や若いエネルギーは、地域の方々にとってかけがえのない力になります。その力を、ぜひ地域へ。

キャリア支援センター横やロッカー前掲示板に募集を掲示しています。一步踏み出す勇気が出たら、2号館3階ボランティア活動支援室へ。お待ちしております。

(ボランティア活動支援室長 川喜田 多佳子)



学生広報スタッフ

「ここで学びたい」が生まれる理由

学生広報スタッフの活躍



高田短期大学のオープンキャンパスでは、在学生で構成される「学生広報スタッフ」が大活躍しています。令和8年度は、子ども学科5名、キャリア育成学科オフィスワークコース2名、介護福祉コース2名の計9名が任命されました。キャンパスツアーで学内を案内したり、体験イベントと一緒に盛り上

げたりと、オープンキャンパスを楽しく、分かりやすくしてくれる心強い存在です。先輩だからこそ話せる学生生活のことや授業の雰囲気など、高校生の疑問や不安にも気さくに答えてくれます。参加者アンケートには、「在校生との交流が多く、実際の声を聞けてよかった。楽しんで学校生活をおくれそうだなと思った」「在学生の方や先生方の雰囲気がめっちゃ良かったです!」という声が寄せられています。高田短期大学のリアルな魅力を知りたい人は、ぜひオープンキャンパスで学生広報スタッフに会いに来てください!



(入試広報委員長 廣田 千明)

研究余滴

学童保育指導員歴55年の 保育者の語り研究から

学童保育指導員として55年間、同じ場所でも働き続けてきた一人の保育者の話から、「働くこと」の意味について改めて考えさせられた。子どもや制度、社会が大きく変わる中で、一つの職場で働き続けてきた点はとても特徴的である。同じ仕事を長く続ける人はいても、同じ場所でここまで続ける人は多くない。その歩みからは、子どもや保護者のために現場に立ち続けてきた思いの強さを感じられる。

この保育者が長く仕事を続けられた理由の一つは、「学び続ける姿勢」にある。これまでの経験に頼るだけでなく、その時々子どもや社会に合わせて、自分の保育の方法を見直し、変え続けてきた。変化を受け入れ、自分も

成長しようとするのが、長く働き続ける力になっていたのである。

現在は70代で、若い指導員を育てながら、自分に合った働き方や保育のあり方を考えている。「今の自分にできること」を大切にしている姿がとても印象的であった。

働くことは、自分自身を成長させていくことでもある。学びながら自分にできることに取り組み、それが誰かの役に立つ。その積み重ねが、自分の生き方をつくっていくのだと感じた。

そして、このような保育者の話を多くの人に伝えていくことが、自分の役割の一つであると考え、今後の研究活動に取り組んでいきたい。

(子ども学科准教授 林 幹士)

着任のみなさん



介護福祉の魅力を、このキャンパスから

キャリア育成学科 小倉 和也

はじめまして。今年度から着任いたしました。介護福祉演習や介護実習を担当いたします。どうぞよろしくお願いいたします。また、オープンキャンパスで訪れる高校生の皆様、介護福祉は、人の笑顔と「その人らしさ」を支える奥深く、魅力的な分野です。この高田短期大学という素敵な場所で、一緒に楽しく、実践的に学んでいけることを楽しみにしています。キャンパスで見かけたときは気軽に声をかけください。



地域社会とつながる学びを

キャリア育成学科 松下 昌史

本年度よりキャリア育成学科に着任いたしました。主に経営学や社会学、経営管理論などの講義を担当しています。授業では、学生が自ら考え、他者との協働や地域社会とのつながりを意識しながら学べるよう努めてまいります。まだ学ぶことも多い立場ですが、学生のみなさんとともに成長し、「たかたん」での学びが将来の仕事や生活につながるよう支えていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



再び学びの場へ

子ども学科 金森 まさ子

緑豊かなキャンパスに戻り、子ども学科に再び着任いたしました。保育の仕事は、楽しく自分を成長させてくれる尊い仕事です。幼児教育に携わってきた経験の中で、振り返れば子どもや保護者、同僚たちからいろいろな学びがあったことに気づかされます。この学びを活かし、保育の場で生きる内容を学生と共に考えていけたらと思っています。学生たちのにぎやかな楽しそうな声を聴きながら、新たな気持ちでまた学生たちと共に学び合いたいと思います。



一人ひとりの思いを大切に

キャリア支援センター 久野 嘉也

4月よりキャリア支援センターでお世話になっています。これまで県立高等学校、県教育委員会事務局で様々な仕事に携わってきました。特に何ができるという特徴はありませんが、目の前の仕事に真摯に向き合うこと、他者に対して丁寧に接することはできると思います。学生一人ひとりと丁寧に向き合い、それぞれの主体性を尊重しながら進路実現に向けて支援していきたいと考えています。



同窓会の近況



前年度の高田短期大学通信の中で、短大大会の活動の見直しを検討することをお知らせしました。これまで50年を超えて卒業生を送り出し、卒業の際に、その年度の理事として多くの皆様に大変お世話になってきました。近年では、高短祭でバザーを行い、その収益金を同窓会開催に係る通信費として補助してきました。

今回、これまでの活動を見直し、バザーの終了、理事への文書発送の終了、同窓会の通信費補助の終了を決定いたしました。今後は、高田学苑樹心同窓会本部との円滑な連携をもち、短大大会として活動していきたいと思っています。

高田学苑樹心同窓会のホームページにて、短大大会の活動等も掲載できればと考えています。また、ホームページ内には高田学苑樹心同窓会のイベントがたくさん掲載されていますので、是非ご覧になり、ご参加いただきますようお願いいたします。今後とも、短大大会の活動にご理解、ご協力いただきますよう、お願いいたします。

(堀内 由香里)

今号の表紙の題字デザインについて

「高田短期大学通信」の題字デザインを2026年4月15日から5月22日まで募集したところ全部で6点の応募がありました。どれも力作で1点を選ぶのが大変難しかったのですが、最終的にキャリア育成学科1年生の松山莉々花さんの作品に決定しました。

なお、表紙の写真も募集を行いました。写真については応募数が少なく、選考の結果、該当作はありませんでした。そのため今回は、学校で撮影したものを掲載させていただくこととさせていただきます。

応募してくださった皆さん、ありがとうございました。

今後も募集を予定しておりますので、皆さんからのご応募をお待ちしております。



(図書委員会)

人生余滴

だのは、ドイツ最
実験地に選ん
可能になります。

「人生余滴」を執筆する機会を
いただきましたが、私の人生、
人様にお話しするほどのものでは
ありません。そこで、とりあえ
ず失敗談を二つ書かせていただ
きます。

まずは、小学校の頃の失敗で
す。小学校へは電車通学でした。
ある日の下校時、電車に乗ろう
と歩み出したところ、突然大
きな鉄の車輪が目の前に現れま
した。ホームと電車の間に落ち
たのですが、事態が飲み込めな
かったのか、怖いと思った記憶は
ありません。駅員さんに引き上
げてもらい、事なきを得ました。

もう一つは、今から四十五年ほ
ど前の失敗です。当時、私はドイ
ツのボン大学に留学し、貝殻の
成長輪がどのような周期で作ら
れるのかを飼育実験で調べてい
ました。貝殻には細かな成長輪
があります。作られる周期がわ
かれば、化石の貝殻の成長輪を
カレンダーとして、大昔の出来

我が人生の失敗談



大野 照文
元特任教授

北部シルト島の干潟でした。
一九七八年の夏、セイヨウザ
ルガイに印を付けて放し、定
期的に回収して成長輪を調べ
る実験は順調に進みました。
ところがその年の冬、ドイツは

「世紀の大寒波」に襲われます。
実験の様子を確認するため訪れ
た干潟は、一面厚い氷に覆われ
ていました。干潮時刻を頼りに氷
上を進んだ私は、干潟が見えて
いると思った黒い隙間に足を踏
み入れました。しかし、そこは海
水面で、私は一瞬にして氷の下へ
沈んでしまいました。

必死により登ろうとしました
が、首から下げたカメラが邪魔
をして氷の上が滑りません。
私は一度水中に潜り、カメラを外
して氷上へ放り投げました。そ
して再び浮上し、かろうじて氷
の上へ這い上がる事ができた
のです。真冬にぬれた体で宿舎
に帰るまでの二キロの道のりの
寒さは、今も忘れられません。

こんなお話をした後では、皆
さんは「以後、心を入れ替えて
命を大切に生きることにしまし
た」という教訓話を期待される
でしょう。しかし、喉元過ぎれば
何とやら、それ以後も気楽に生
きてきました。

そんな私も七十五歳になりま
した。高田短期大学で親鸞聖人
の教えに触れる機会をいただい
たこともあり、残る人生、心して
毎日を過ごさねばと、自分に言
い聞かせているこの頃です。

《人 事》

○退職

子ども学科	特任教授	大野 照文
子ども学科	助 教	古谷 淳
キャリア育成学科	准 教 授	橋本 晃
キャリア育成学科	講 師	杉本あゆみ
キャリア育成学科	助 教	江淵 剛

キャリア支援センター長

山本 順三

総務課

金丸 博文

ボランティア部

杉谷 哲也

○異 動

短期大学事務局次長より学苑本部事務局長へ 小津 美佳

公 告

令和7年度における学校法人高田学苑の決算は次のとおりですので、高田学苑寄附行為第76条の規定に基づき公告いたします。

学校法人 高田学苑
(単位: 円)

貸借対照表 (令和8年3月31日)

資産の部				負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減	科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	(7,946,251,712)	(7,999,005,757)	(△52,754,045)	固定負債	(284,165,800)	281,897,578	(2,268,222)
有形 固定 資産	(5,394,109,990)	(5,579,306,462)	(△185,196,472)	退職給与引当金	284,165,800	281,897,578	2,268,222
土 地	1,025,122,922	1,025,122,922	0	流動負債	(537,612,102)	406,345,835	(131,266,267)
建 物	3,511,217,464	3,701,141,187	△189,923,723	未払金	84,074,972	63,744,986	20,329,986
構築物	452,046,185	501,687,800	△49,641,615	前受金	291,450,000	252,620,000	38,830,000
教育研究用機器備品	120,552,625	85,023,738	35,528,887	預り金	25,385,458	28,111,725	△2,726,267
管理用機器備品	12,105,294	9,419,708	2,685,586	修学旅行費預り金	52,035,417	55,896,024	△3,860,607
図 書	219,306,822	224,708,029	△5,401,207	卒業諸費預り金	6,043,675	5,973,100	70,575
車 輦	23,839,200	2,283,600	21,555,600	賞与引当金	78,622,580	0	78,622,580
学苑林	29,919,478	29,919,478	0	負債の部合計	(821,777,902)	(688,243,413)	(133,534,489)
特定資産	(2,519,289,330)	(2,371,549,330)	(147,740,000)	純資産の部			
退職給与引当特定資産	282,000,000	282,000,000	0	科 目	本年度末	前年度末	増 減
施設設備拡充引当特定資産	2,237,289,330	2,089,549,330	147,740,000	基本金	(13,172,921,523)	(13,122,609,574)	(50,311,949)
その他の固定資産	(32,852,392)	(48,149,965)	(△15,297,573)	第1号 基本金	13,000,921,523	12,950,609,574	50,311,949
借地権	2,257,500	2,257,500	0	第4号 基本金	172,000,000	172,000,000	0
電話加入権	1,285,980	1,285,980	0	繰越収支差額	(△5,598,200,919)	(△5,335,695,344)	(△262,505,575)
ソフトウェア	14,268,100	15,960,230	△1,692,130	翌年度繰越収支差額	△5,598,200,919	△5,335,695,344	△262,505,575
有価証券	3,297,674	13,297,674	△10,000,000	純資産の部合計	(7,574,720,604)	(7,786,914,230)	(△212,193,626)
差し入れ保証金	350,000	350,000	0	負債及び純資産の部合計	(8,396,498,506)	(8,475,157,643)	(△78,659,137)
長期前払金	11,393,138	14,998,581	△3,605,443				
流動資産	(450,246,794)	(476,151,886)	(△25,905,092)				
現金預金	346,120,461	300,889,191	45,231,270				
未収入金	45,626,097	113,003,318	△67,377,221				
前払金	66,000	66,000	0				
立替金	355,144	324,253	30,891				
修学旅行費預り資産	52,035,417	55,896,024	△3,860,607				
卒業諸費預り資産	6,043,675	5,973,100	70,575				
資産の部合計	(8,396,498,506)	(8,475,157,643)	(△78,659,137)				

令和7年度卒業生 就職先等一覧

子ども学科

◆私立保育園

イオンゆめみらい保育園津南、伊勢けいゆう塾ケアひかり、伊勢けいゆう塾保育園、内部ハートピア保育園、嬉野保育園、えがおあけぼの保育園、大山田東保育園、神戸保育園、志登茂保育園、佐八保育園、第二長太ノ浦保育園、ちいさな保育園、つくし第二保育園、つくし保育園、鼓が浦保育園、ドリームハウス保育園、ながさわ保育園、長太ノ浦保育園、七和保育園、野登ルンビニ園、久居保育園、三重大さつき保育園、みどり保育園、山室山保育園、わかすぎ保育園、泉の杜保育園(愛知県)、株式会社WITH(東京都)、こどものまち杉村保育園(愛知県)、多摩センターエンゼルホーム(東京都)

◆私立幼稚園

エンゼル幼稚園、高田幼稚園

◆私立こども園

愛育こども園、愛華こども園、暁の星こども園、石薬師認定こども園、いそやま保育園、いつきのみやこども園、きしだこども園、蔵持こども園、白百合幼稚園、高田保育園、津こども園、認定こども園くわな、のべの幼稚園、藤認定こども園、ふたば幼稚園、松阪清泉愛育園、めいりんこども園、明和ゆたか園、杜の街ゆたか園、よっかいちひばり認定こども園、打瀬保育園(千葉県)、飛鳥保育園(愛知県)

◆公立保育園

伊賀市立猪田保育所、伊賀市立しろなみ保育所、伊賀市立柘植保育所、伊勢市立保育所きらら館、伊勢市立保育所ゆりかご園、亀山市立神辺保育園、桑名市立城東保育園、菰野町立竹永幼保育園、菰野町立千種幼保育園、玉城町立有田保育所、玉城町立田丸保育所、津市立安濃保育園、津市立川合保育園、津市立橋南保育園、津市立こべき保育園、津市立相愛保育園、津市立高洲保育園、津市立千里ヶ丘保育園、津市立野村保育園、津市立ひとみね保育園、津市立北部保育園、鳥羽市立あおぞら保育所、松阪市立三郷保育園、松阪市立第二保育園、松阪市立西保育園、四日市市立ときわ保育園、下呂市立かみはら子育て・保育ステーション(岐阜県)

◆公立保育園(会計年度職員)

津市立安濃保育園、津市立乙部保育園、津市立橋南保育園、津市立北部保育園、松阪市立

大河内保育園、松阪市立白鳩保育園、大阪市立保育園

◆公立幼稚園

津市立藤水幼稚園、津市立桃園幼稚園

◆公立こども園

亀山市立認定こども園アスレ、菰野町立朝上こども園、志摩市立磯部こども園、四日市立神前こども園

◆公立こども園(会計年度職員)

津市立一志こども園、津市立香良洲浜っ子幼児園、津市立津みどりの森こども園、津市立白山こども園、松阪市立飯南たんぽぽこども園、松阪市立やまなみこども園

◆その他の公務(会計年度職員)

県立稲葉特別支援学校、津市保育こども園課

◆施設

いなば園くすのき寮、心さらさら、聖マッテヤこどもの家、三重済美学院、みどり自由学園、伊賀さくら苑、通園めだか

◆企業

(株)Wiz Field、(株)エイジェック、(株)イング

◆進学

皇學館大学

キャリア育成学科(オフィスワークコース)

◆建設業

(株)アイフク・テック

◆製造業

エイベックス(株)、(株)遠藤製作所、(株)オクムラ、(株)トピア、(株)パーソナック、(株)ヨシザワ、住友電装(株)、平和製粉(株)、美和ロック(株)

◆情報通信業

(株)サイネックス

◆運輸業、郵便業

(株)日本陸送、三重交通(株)

◆卸売業、小売業

ICDAホールディング(株)、栄光真珠(株)、(株)くすりのアオキ、(株)スズキ自販三重、(株)ハート(ふじ調剤薬局)、(株)ホンダパーツ中部、トヨタカローラ三重(株)、ネットヨタノヴェル三重(株)、ネットヨタ三重(株)、三重いすゞ自動車(株)、三重ダイハツ販売(株)、三重トヨペット(株)、ユニー(株)

◆金融業、保険業

(株)三十三銀行、桑名三重信用金庫

◆宿泊業、飲食サービス業

サン浦島ホールディングス(株)、日本メナード化

粧品(株)メナード青山リゾート

◆生活関連サービス業、娯楽業

(株)マルトアシシステム津営業所、(株)プレイス&アビリティ(愛知県)

◆教育、学習支援業

三重高等自動車学校

◆医療、福祉

あけあい会、いせ眼科クリニック、MSMCみどりクリニック、恩賜財団済生会松阪総合病院、さの整形外科クリニック、遠山病院、丸の内まつなが眼科、三重ハートセンター、ヤナセメディケアグループ、津北整形外科

◆複合サービス事業

松阪ケーブルテレビ・ステーション(株)、三重商工会連合会

◆サービス業

(株)トヨレンタリース三重、パーソナルファクトリーパートナーズ(株)、(株)レノリューション(愛知県)

◆その他のサービス業

伊勢労務管理事務所

◆公務

三重県職員(学校職員B)、三重県警察官B、大阪府警行政職(警察事務)(大阪)

キャリア育成学科(介護福祉コース)

◆老人福祉施設

特別養護老人ホーム かなしろうず園、特別養護老人ホーム さすな、特別養護老人ホーム グリーンヒル、特別養護老人ホーム 双樹園、特別養護老人ホーム なでしこ苑、特別養護老人ホーム むつみ園、特別養護老人ホーム 明和苑、特別養護老人ホーム やまゆりの里、特別養護老人ホーム 多気彩幸、特別養護老人ホーム 優美、特別養護老人ホーム くすのき園、介護老人保健施設あのお、介護老人保健施設 つつじの里、佐藤病院、特別養護老人ホーム 亀寿苑、特別養護老人ホーム 安全の里、名古屋福祉施設協会(愛知県)、まこと介護医療院(愛知県)

◆障がい者支援施設

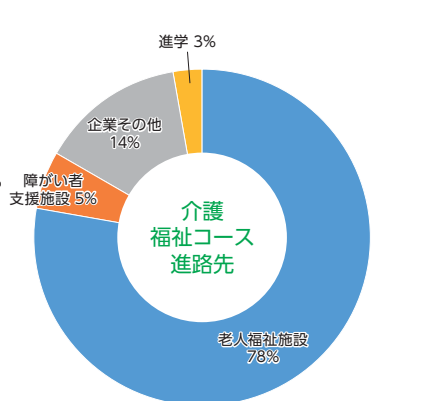
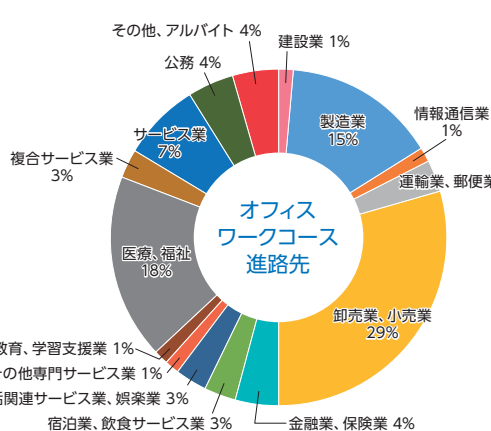
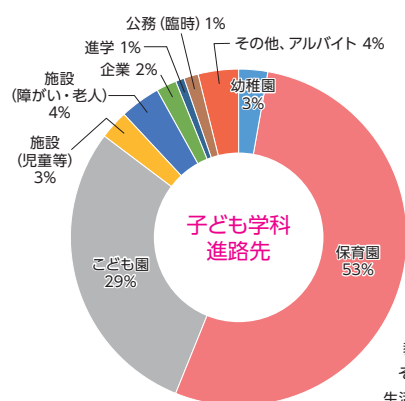
障害者支援施設聖マッテヤ心豊苑、特定非営利活動法人メイク

◆企業その他

松阪市立久保中学校、(株)オクムラ、ヒメヤ工業株式会社

◆進学

名古屋芸術大学



編集後記

高田短期大学通信第61号をご覧いただき、誠にありがとうございました。また、公私何かとお忙しい中、ご執筆くださいました皆様に心より感謝申し上げます。皆様のご協力のおかげで、本学の取り組みや学びの中で心を動かしている学生たちの様子、教職員の思いなどを、多くの方々にお届けすることができましたことを心よりうれしく思っております。今後とも変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。